授業科目（単位―時間） 在宅看護論　概論（1 単位―15 時間）	時　　期 1 年　後期	担　当　講　師 山口　理恵・廣本　真臣 浅野　祐平・若狭　聡子

〈　授業科目の目標　〉
1. 在宅療養者の目的と在宅看護における看護師の役割について理解できる。
2. 在宅看護の対象となる地域で生活しながら療養する人とその家族を理解する。
3. 生活の質を支える法令・制度や多職種との連携を理解し、看護の役割を理解する。

単元	単元目標	内容	方法
1. 在宅看護の目的と特徴	1. 在宅看護の現状から、在宅看護が目ざすものや、その目的を理解する。	1. 在宅看護の背景と基盤 2. 在宅看護の役割･機能 3. 地域包括ケアシステム	講義(4 時間) 山口
2. 在宅看護の対象者	1. 在宅看護の対象者について理解できる。	1. 対象者 1)年齢、疾患、障害からみた対象者の特徴 2)生活者としての対象者の特徴 2. 家族 1) 在宅療養の場における家族のとらえ方 2) 在宅療養者の家族への看護	講義・グループワーク・DVD 視聴(4 時間) 山口
3. 在宅看護にかかわる法令・制度の活用	1. 在宅看護の法令・制度が理解できる。	1. 地域療養を支える制度 1)介護保険制度 2)医療保険制度 3)障害者総合支援法 4)難病法 5)医療介護総合確保推進法 6)医療法 7)その他のおもな公費負担医療 8)在宅療養者の権利擁護	講義・グループワーク(4時間) 廣本
4. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護	1. 在宅看護における多職種との連携・協働の必要性が理解できる。	1. 療養の場の移行に伴う看護 2. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 1)在宅における連携の特徴 2)保健医療福祉チーム 3)他職種の理解 4)退院支援の実際	講義(2 時間) 若狭 講義(2 時間) 浅野

〈　評　　価　〉
筆記試験(9 割：山口 60 点、廣本 30 点)、授業の参加態度・出席状況(１割)を総合して評価する。
ただし、筆記試験はそれのみで合格しなければならない。

〈　テキストおよび参考文献　〉
河原加代子:系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　第５版,東京, 医学書院, 433p, 2020.
押川真喜子:新訂版写真でわかる訪問看護アドバンス[Web 動画付], 初版,東京, インターメディカ,168p,2020.

授業科目（単位―時間） 在宅看護論　方法論Ⅰ（1 単位―30 時間）	時　　期 2 年　前期	担　当　講　師 田尻　美紀・能見　真紀子 石塚　仁美・小野寺　智和

〈　授業科目の目標　〉

1. 地域で生活する療養者とその家族の生活の質を高めるための在宅看護を理解できる。
2. 在宅における医療ケアの管理と看護の実際から倫理に基づく看護を実践する基礎的能力を養う。
3. 地域包括ケアシステムについての概要と看護職の役割を理解できる。

単元	単元目標	内容	方法
1. 在宅での日常生活を支える安全な看護技術	1. 在宅での日常生活を支える安全な看護技術を理解できる。	1. 日常生活における安全と健康危機管理 1)在宅における危機管理 2)日常生活における安全管理 3)災害時における在宅医療者と家族の健康危機管理 2. 日常生活を支える在宅看護技術 1)食生活に関する在宅看護技術 2)排泄に関する在宅看護技術 3)清潔に関する在宅看護技術 4)移動・移乗に関する在宅看護技術	講義(2 時間) 田尻 講義(2 時間) 小野寺 講義・グループワーク・演習 (6時間)　田尻
2. 在宅での療養を支える看護技術	1. 在宅での医療を支える看護技術を理解できる。	1. 在宅酸素療法と非侵襲的陽圧換気療法 1)意義と目的 2)リスクアセスメントと在宅看護の実際 3)排痰に関する在宅看護技術 2. ストーマ管理（人工肛門・人工膀胱） 1)意義と目的 2)リスクアセスメントと在宅看護の実際 3)社会資源の活用・調整 3. 排尿ケア 1)膀胱留置カテーテルの合併症と対応 2)清潔間欠導尿 4. 在宅経管栄養法（胃瘻法） 1)意義と目的、対象の特徴 2)リスクアセスメントと在宅看護の実際 5. 在宅中心静脈栄養法と末梢静脈栄養法 1)目的と対象の特徴 2)リスクアセスメントと在宅看護の実際	講義・演習 (4 時間) 能見 講義(2 時間) 石塚 講義・グループワーク・演習 DVD 視聴 (6時間)　田尻
3. 地域包括ケアシステム	1. 地域包括ケアシステムを構成する関係機関との双方向の連携と、看護が果たす役割を理解できる。	1. 生活の場に応じた看護とサービス提供機関 2. 医療施設や介護施設の連携 3. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携と、看護が果たす役割	施設見学 (4 時間) 田尻 グループワーク(4 時間) 田尻

〈　評　　価　〉

筆記試験(7 割)、レポート・課題（2 割)、授業の参加態度・出席状況(1 割)を総合して評価する。
ただし、筆記試験はそれのみで合格しなければならない。

〈　テキストおよび参考文献　〉

河原加代子：系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　第 5 版, 東京, 医学書院, 433p, 2020.
押川真喜子：新訂版写真でわかる訪問看護ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ[Web 動画付], 初版, 東京, ｲﾝﾀｰﾒﾃﾞｨｶ, 168p, 2020.
河野あゆみ:強みと弱みからみた在宅看護過程+総合的機能関連図,第1版, 医学書院,p574,2018.

授業科目（単位―時間） 在宅看護論　方法論Ⅱ（1 単位―30 時間）	時　　期 2 年　後期	担　当　講　師 野田　孝子・森　　佳子・中島奈津希 児玉　悦子・中村　千春・三枝さやか 渡辺　千穂・笹木みゆき・土田　智也 御家瀬真由

〈　授業科目の目標　〉

1. 医療機関における入退院時の連携と継続看護の重要性について理解する。
2. 在宅療養生活を支える訪問看護の特徴を理解する。
3. 在宅療養者の日常生活援助・医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の展開方法を学ぶ。

単元	単元目標	内容	方法
1. 在宅看護介入時の連携	1. 医療機関における在宅看護介入時の連携を理解できる。	1. 在宅療養準備期（退院前）/移行期 2. 地域連携室の特性 3. 外来看護の特性(外来・血液透析) 4. 看護外来の役割	講義(6 時間) 森 中島 土田
2. 在宅看護の展開	1. 訪問看護における援助関係の基本が理解できる。	1. 訪問看護における援助関係の基本 1)訪問看護の特徴 2)在宅ケアを支える訪問看護 2. 訪問看護の実際 3. 訪問看護倫理要綱	講義(4 時間) 児玉
3. 在宅看護の実際	1. 療養者とその家族の看護について理解できる。	1. 脳梗塞後遺症のある療養者の在宅療養 1)退院・在宅療養にむけての面接 2)退院支援・退院計画 2. パーキンソン病療養者の在宅看護 1)アセスメントと在宅看護 3. ALS で在宅人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護 1)特定疾患 2)社会資源の活用 3)リビングウイル 4. 頸髄損傷療養者の在宅看護 1)退院支援 2)社会資源の活用 3)訪問看護の実施経過と評価 5. 小児の療養者の在宅看護 1)訪問看護の実施経過と評価 6. 終末期の療養者の在宅看護 1)疼痛コントロール 2)退院支援の役割と看護	講義・グループワーク・演習(4時間)　中村 講義(2 時間) 三枝 講義(2 時間) 渡辺 講義(2 時間) 笹木 講義(4 時間) 御家瀬 講義(2 時間) 森
4. 継続看護の実際	1. 在宅療養を支える訪問看護サービスの展開が理解できる。	1. 訪問看護サービスの展開 1)初回訪問 2)訪問看護における看護過程の特徴	講義（4 時間） 野田

〈　評　　価　〉

筆記試験(9 割),授業の参加態度・出席状況(1 割)を総合して評価する。
ただし、筆記試験はそれのみで合格しなければならない。

〈　テキストおよび参考文献　〉

河原加代子:系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　第 5 版,東京, 医学書院, 433p, 2020.
押川真喜子:新訂版写真でわかる訪問看護アドバンス[Web 動画付], 初版,東京, インターメディカ,168p,2020.
河野あゆみ:強みと弱みからみた在宅看護過程+総合的機能関連図,第1版, 医学書院,p574,2018.

授業科目（単位―時間） 在宅看護論　方法論Ⅲ（1 単位―15 時間）	時　　期 2 年　後期	担　当　講　師 野田　孝子

〈　授業科目の目標　〉

1. 在宅療養者とその家族の生活を基盤とした全体像を捉え、生き方を支える目標設定について理解できる。
2. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護過程の基礎的能力を養う。

単元	単元目標	内容	方法
1. 在宅看護の展開	1. 在宅看護における看護過程の展開が理解できる。	1. 在宅看護における看護過程 1)在宅看護過程の特徴 2)情報収集とアセスメント 3)目標の設定・計画 4)実施評価	4時間　講義
	2. 紙上事例を通して看護過程を展開できる。	2. 紙上事例での在宅看護過程の展開 1）事例をもとに看護過程を展開 2）ロールプレイの実施	12 時間　演習

〈　評　　価　〉

筆記試験(7 割)、提出物（2 割)、授業の参加態度・出席状況(1 割)を総合して評価する。

〈　テキストおよび参考文献　〉

河原加代子:系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　第 5 版,東京, 医学書院, 433p, 2020.
押川真喜子:新訂版写真でわかる訪問看護アドバンス[Web 動画付], 初版,東京, インターメディカ,168p,2020.
河野あゆみ:強みと弱みからみた在宅看護過程+総合的機能関連図,第1版, 医学書院,p574,2018.

授業科目（単位―時間） 看護管理・研究（1 単位－30 時間）	時　　期 3 年前・後期	担　当　講　師 戸田　悦子・野田　孝子・山崎　君江 高野　美奈子・加藤　幸代

〈　授業科目の目標　〉

1. 看護における研究力（問題発見、問題分析、問題探求・調査、倫理的思考）の基礎的知識を習得する。
2. 看護活動を円滑に行なうための看護管理のあり方を学び、専門職業人としての自覚を促す。

単元	単元目標	内容	方法
1. 看護研究	看護における研究の役割 1.　看護研究の基礎が理解できる。 2.　看護研究の種類と特徴が理解できる。	1. 看護研究とは 2. 看護の役割 3. 研究デザイン 　1）量的研究 　2）質的研究	講義（4 時間） 野田
	文献検索・文献レビュ 1.　文献検索の意義を理解できる。 2.　具体的な文献を検索できる。	1. 文献検索の方法 2. 文献の入手方法 3. クリティカルな読み方	講義（2 時間） 演習（2 時間） 野田
	研究の進め方 1.　研究計画書を作成できる 2.　研究計画を発表できる	1. 研究の進め方 2. 研究課題の抽出 3. 研究の枠組み 4. 研究計画書の作成 5. 研究計画報告会での発表	講義（4 時間） 演習（8 時間） 野田
2. 看護管理	看護とマネジメント 1. 看護管理学に含まれる要素の概略が理解できる。	1. 看護管理学とは 2. マネジメントとは 3. 看護におけるマネジメント	講義（2 時間） 戸田
	看護ケアのマネジメント 1. マネジメントサイクルとマネジメントプロセスが理解できる。 2. 看護業務実践のために必要なマネジメントを理解する。	1. マネジメントと看護職の機能 2. 患者の権利の尊重 3. 安全管理 4. チーム医療 5. 看護業務の実践	
	看護を取り巻く諸制度 1. 看護職に関わる定義や法制度について理解できる。	1.　法と看護職 2.　医療制度	講義（2 時間） 山崎
	看護サービスのマネジメント 1. 看護サービス提供のためのしくみを理解できる。 2. 対象者へのサービス評価について理解できる。	1. 看護サービスとマネジメント 2. 組織目的と人材のマネジメント 3. 協働のためのマネジメント 4. 組織におけるリスクマネジメント 5. サービス評価	講義（4 時間） 高野・加藤
	マネジメントに必要な知識と技術 1. 組織の構造とマネジメントの関連が理解できる。 2. 組織において個人の能力を広げる要素を理解できる。	1. 組織とマネジメント 2. リーダーシップとマネジメント 3. 組織の調整 4. 組織と個人	講義（2 時間） 山崎

〈　評　　価　〉

授業態度全般と以下を総合して評価する。ただし、それぞれにおいて合格しなければならない。
【看護研究 60%】評価表に基づいた評価【看護管理 40%】筆記試験での評価

〈　テキストおよび参考文献　〉

上泉和子：系統看護学講座　看護の統合と実践[1]統合分野　看護管理，第 10 版，東京，医学書院，243p，2020.
坂下玲子：系統看護学講座　別巻　看護研究，東京，医学書院，378P，2020.

授業科目（単位―時間） 災害・国際看護（1 単位―15 時間）	時　　期 3 年　前期	担　当　講　師 戸田　悦子・新村　智宏

〈　授業科目の目標　〉

1. 既習の知識・技術を統合し、災害時の看護者役割を述べることができる。
2. 災害時の医療・看護活動の実際を知り、災害看護活動上の課題を考察することができる。
3. 国際看護における基本的な概念と国際看護活動の実際を知る。

単元	単元目標	内容	方　　法
1. 災害看護・国際看護の概念	1. 災害看護・国際看護の定義や基礎知識について理解できる。	1. 災害看護・国際看護とは何か 1) 国際看護学とは (1) 看護とグローバリゼーション (2) グローバリヘルス (3) 国際協力のしくみ (4) 多文化看護 (5) 開発協力と看護 (6) 国際救援と看護保健医療の国際協力 2) 災害看護学とは (1) 災害看護の歩み (2) 災害医療の基礎知識 (3) 災害看護の基礎知識 (4) 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 (5) 被災者特性に応じた看護の展開法による減災 3) 災害看護の基礎知識 4) 災害看護の特徴と看護活動	講義・DVD 視聴（4 時間） 戸田
2. 地震災害看護の展開	1. 災害看護の実際を理解し、活動上の課題を明確にできる。 2. 地震災害に関する発災直後・急性期・亜急性期・慢性期・復興期、それぞれの看護展開を模擬事例によって紙上演習的に学ぶ。 3. 発災直後から出動までの看護/急性期の看護/亜急性期の看護/慢性期・復興期の看護を学ぶ。	1. 災害看護の実際Ⅰ（基礎） 1) 災害各期に合わせた看護 (1) 緊急時・災害初期の活動 (2) 中長期的ケア (3) 備え 2) 災害とこころのケア 2. 災害看護の実際Ⅱ（実践編） 1) オリエンテーション 2) 想定演習 3. 統合学習 ＊実際の災害場面の画像を見ることに不安のある学生は事前に、ご相談ください。 ＊各授業は、講義のみではなく皆さんの意見を取り入れながら行います。積極的に授業に参加してください。	講義・DVD 視聴（6 時間） 新村 講義（2 時間） 演習討議・ 発表（4 時間） 新村 ・グループでまとめをし、発表する。 ・本学習の成果を個人レポートにまとめる。

〈　評　　価　〉

戸田：20 点（筆記試験）

新村：80 点演習への参加度、演習成果、個人レポートにて総合的に評価する。

〈　テキストおよび参考文献　〉

浦田　喜久子、小原　真理子編集：系統看護学講座 看護の統合と実践[3]統合分野 災害看護学・国際看護学, 第 4 版, 東京, 医学書院, 378p, 2020.

授業科目（単位―時間） 臨床看護の実践（1 単位－30 時間）	時　　期 3 年前期・後期	担　当　講　師 戸田　悦子・田尻　美紀

〈　授業科目の目標　〉
1. 臨床現場に即した看護実践を行い、看護実践能力を養う。

単元	単元目標	内容	方法
1. 事例を用いた看護実践	1. 事例を用いた点滴静脈注射に必要な援助行動がとれる。	1. 点滴静脈注射の演習 1) 必要物品の準備、実施方法、留意点 2) 点滴静脈注射の管理と看護	講義(6 時間) 演習(4 時間) 田尻
2. 臨床現場における看護実践	1. 臨床現場における看護実践に必要な援助行動がとれる。	1. 高齢者の機能にあわせた口腔ケア 2. 対象の特性に合わせた与薬（内服薬） 3. 対象の特性を考慮した面接技術 4. 安全・安楽な身体計測（乳児） 5. 臨床現場に即した沐浴	演習(10 時間) 各担当教員
	2. 既習の知識・技術・態度が統合された臨床看護に必要な判断が理解できる。	1. 看護ケアのマネジメント 2. 看護サービスのマネジメント 3.　専門職の倫理 1）専門職の倫理 2）看護実践上の倫理	演習（2 時間） 試験含 戸田
3. 状況設定における看護実践	1. 状況に応じた判断や安全に配慮した援助行動がとれる。	1. 複数患者の看護実践 1) 予期しない患者の反応 2) 突発的な事態 3) 振り返り	講義(4 時間) 演習(4 時間) 田尻

〈　評　　価　〉
「点滴静脈内注射」4 割、「臨床現場における看護実践 1」5 割、「臨床現場における看護実践 2」1 割を各技術演習評価表に基づき総合して評価する。
ただし、技術試験・課題においてはそれぞれで合格しなければならない。

〈テキスト及び参考文献〉
任和子：系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ, 第 17 版, 東京, 医学書院, 520p, 2020.
吉田みつ子, 本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ[web 動画付], 東京, インターメディカ, 248p, 2020.
本庄恵子, 吉田みつ子監修:写真でわかる臨床看護技術 1 ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ[web 動画付], 東京, インターメディカ, 196p, 2020.
本庄恵子, 吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術 2 ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ[web 動画付], 東京, インターメディカ, 232p, 2020.

授業科目（単位―時間） 看護の実践と安全（1 単位－15 時間）	時　　期 3 年前期・後期	担　当　講　師 和田　裕子・大嶋　守・吉田　憲史 新村　智宏・工藤　勇人

〈　授業科目の目標・概要等　〉

1. 診療の補助技術における事故予防・分析できる能力を身につける。
2. 倫理観に基づいて安全を保障した看護を提供する看護実践能力を養う。

単元	単元目標	内容	方法
1. 診療の補助技術における安全	1. 危険な医療行為の観察･管理における事故予防、分析ができる。 2. 看護医療事故防止対策について理解し、必要な行動をとることができる。 3. 主体的に自らの看護実践を安全の視点で振り返ることができる。	1. 周手術期患者の看護実践 1) 患者誤認防止 2) 術後観察 3) チューブ・ドレーン管理 2. 誤嚥時の対処 1) 緊急時の対処 2) 吸引法 3) 気道確保	講義・グループワーク(4 時間) 演習　(2 時間) 和田 講義･演習 (2 時間)　新村
	1. 患者に投与する業務における事故防止の基礎知識を理解できる。 2. 安全を脅かす要因及び医薬品の安全な管理について理解できる。 3. 業務上の危険と防止策を理解できる。	1. 薬物の管理と投与 1) 抗生物質･感染症治療薬 2) 抗がん薬 3) インスリン製剤 2. 輸血の管理と投与 3. 薬剤･放射線暴露の防止	講義　(4 時間) 吉田 講義･DVD 視聴 (2 時間)　工藤 講義　(2 時間) 大嶋

〈　評　　価　〉

筆記試験(7 割)、記録物(2 割)、授業の参加態度・出席状況(1 割)を総合して評価する。
ただし、筆記試験はそれのみで合格しなければならない。

〈　テキストおよび参考文献　〉

任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ，第 17 版, 東京，医学書院，520p, 2020.
吉田みつ子, 本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ[web 動画付], 東京, インターメディカ, 248p, 2020.
本庄恵子, 吉田みつ子監修:写真でわかる臨床看護技術 1 ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ[web 動画付], 東京, インターメディカ, 196p, 2020.
本庄恵子, 吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術 2 ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ[web 動画付], 東京, インターメディカ，232p, 2020.
川村治子：系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践[2]　医療安全, 第 4 版[電子版]，東京，医学書院, 295P，　2020.